

高校生の保護者のみなさまへ

1 思春期後半を迎えたお子さんへの接し方

個人差はありますが、高校生になると反抗期は治まりかなり大人びて見えてくると思っています。身体的にはほぼ大人と同様となりますが、精神的にはまだまだ揺れています。本当の自分の姿を求めてさまよっている時期です。他人の良さばかりが気になり、自分の良さに気づきにくい時期でもあります。そんな時期に就職か進学か、就職するとしたらどんな企業へ、進学するとしたらどんな大学へと選択を迫られるわけですから、本人もなかなか見定めが難しいと思います。就職するとしても、事務系か、技術系か、営業系かと悩むでしょう。大学・専門学校に進学するとしても、文系か、理系か、専門知識機や技術を習得するのか、広く知識を高めるのかいろいろ考えてしまいます。親としてもそんな我が子を見ていると歯がゆくなり、あれこれ物を言いたくなってしまうのです。

この問題はお子さんの今後の生き方を左右する問題ですから、とても大きな問題です。そんな際、親の願いや夢を押し付けるのはどうかと思います。将来、困らないように公務員か安定した大会社に就職してほしい、あるいは資格を身に付けてそれを生かす仕事についてほしいとかお思いがちですが、お子さんの特性や希望、考えを大切にしてください。

世の中には、工学部に進学したが自分の適性に疑問を感じ、文学部に編集し国語の教師になったり、営業職で頑張っていたが、訪問先のモノづくりに興味を持ち、職人への道を歩みだしたり、銀行へ就職したが日々の事務仕事に疑問を感じ、資格を得ようと大学へ進学したりと途中で大きな進路変更をした方々も身近にけっこういます。高校生の時の選択が正解だった人もいれば、途中で進路変更をして苦労したが今はよかったと思っている人もいます。だから、進路選択はお子さんに任せてもいいのではないかと思います。ただし、親としてご自身の勤労経験に基づき、お子さんの特性を見据えてアドバイスを送ってほしいと思います。

その際、現在の経済状況にとらわれ過ぎたアドバイスは感心しません。経済状況は刻々と変化していきます。コロナ問題が起こるまでは、様々なサービス業をめざす人も多かったと思いますが、世の中が安定し、安心して生活できる状況であれば、旅行・宿泊関連産業、芸術関連産業、外食関連産業等々、自己の特性や創造性を発揮して活躍できる職業だと思えますが、世の中の安全性が問われるととても大変になる職業もあります。社会状況や経済状況の変化により職種によって大きな影響を受けたり、さほど影響を受けなかったり、かえって業績が伸びたりと、予想することは困難です。となると、お子さんの興味・関心や特性に応じた線路選択が一番大切になってくると思っています。

大学等へ進学を考えいるお子さんに対しては、高校と同じで、合格がゴールではなく、そこで何をするかが重要です。出身学校名だけで就職できる企業はなくなってきています。大学で、それなりの能力と資質を磨いたものが希望する企業に就職できているのではないのでしょうか。

2 様々な問題で困ったとき、心配な時は

高校生の悩みや心配事は大きな問題だと思います。親からすると何だそれくらいのことだと思うかもしれませんが、自分探しの旅を続けている時期ですから、本人にとって

は大きな問題だと思えます。成長とともに自負心が大きくなるとともに、羞恥心も強くなってきます。大人からするとたとえ失敗してもたいしたことはない、すぐに挽回できると考えてしまうような問題でも、羞恥心がお子さんの行動にブレーキをかけていることもあります。まだ理想を求めている年ごろでもあるので、失敗は自己の破滅だと考えてしまうこともあります。自分に自信が持てなくなり、敗北感や不甲斐なさを強く感じてしまえば、自殺という最悪の道を選択する可能性も高まってきます。だからこそ、このような時は、親自身の高校時代の思いや失敗を語り、親も同じような思いを持ったり、悶々とした日々を送ったことを伝えてください。そして、それをどうして乗り切ったかを。人によっては悶々とした日々を乗り切るのに 20 代後半までかかったという人もいます。あせらず、じっくり自己を見つめ、本当の自分を見つけられるよう支えてください。

生まれてくる可能性があります。問題行動、発達障害に伴う 2 次障害、いじめ問題、友達が変わった等々です。中学校になると小学校の時仲の良かった友達と離れ、部活動を中心とした仲間との交流が増えます。特に土日祝日の練習日程によって、これまでの友達と遊びたくても遊べない状況が生まれてきます。成長の過程で自分に合う友達とそうでない友達の選別が行われるかもしれません。部活動や一人一人の趣味や関心によって友達が変わってきます。成長の早い子どもから、その傾向は見られます。成長がゆっくりしている子どもは、これまで仲の良かった友達が離れていくような気がして不安感を感じると思いますが、それを家庭で支えてあげてください。

高校生になってもいじめは起こります。高校生にもなるといじめられている事実をほとんど親には内訳ないと思えます。そこで、前述したように、お子さんの様子や、食事の様子に気を配り、お子さんの変化をつかんでいくことが重要になってきます。教育界を上げていじめの撲滅に取り組んでいますが、自殺の道を選ぶ中高生も後を絶ちません。死んでしまってから、原因を探ったり、学校や加害者を責めたりしても手遅れです。自殺の道を選ぶまでに、お子さんの変化を見取り、手を打っていくことが重要でしょう。

相談先としては、まずは学校でしょう。スクールカウンセラーや学級担任、学年主任、生徒指導主事、部活動顧問等様々な相談相手があります。お子さんが気を許せる、信頼できる職員に相談をかけてみましょう。あるいは、親が旧知の教員でもいいでしょう。いじめの問題はなかなか解決しにくい問題ですので、お子さんの心のケアを含めて島田市の教育センターに相談するのも一つの手です。とにかく、最悪の事態にならないようお子さんを支え、励ましていきましょう。

最後になりますが、高校生の行動に対する自己責任の割合は 70%~100%位になってきます。中学生の時と同様、自己の行動に対する責任の取り方を教えていくことが大切です。一人の大人として自立した生活を営むためにもとても重要なことだと思えます。いつまだたっても子どもは子どもと言われますが、お子さんが自立し一人の大人として行動できるようになるまでもう一息です。高校生だからと言って気を抜かずしっかり見守ってあげてください。